

□議員名：会派 新政会 松尾 数則

1 地域の特性を活かしたまちを創る手段について

論点	いいチームを創るための方法・手段について聞く。
回答	リーダーの思い、チームの共感、全員の協力、行動があっという間にいいチームが作れる。相互を尊重し、誰の発案であっても、よいものは取り上げ、みんなで行動しながらそれぞれがよいチームとして機能した結果がスマイルシティ山陽小野田の実現につながる。

論点	山口東京理科大学との連携を、いかに山陽小野田市の活性化に結びつけていくのか聞く。
回答	山陽小野田市産学官連携推進協議会を立ち上げ、地域産業界の技術力の向上、支援活動、研究事例集の作成と活用、研究室の公開を行なう。まだまだ大学と地元企業との間に距離がある。これからは大学にコーディネーターを配置し、地元企業とのマッチングに取り組んでいきたい。

論点	新幹線厚狭駅の利活用について聞く。
回答	厚狭駅に停車新幹線をふやすには新山口駅の5分の1である利用者数の増加を図る必要がある。JR美祿線利用促進協議会と連携し、美祿、長門市とともにJR西日本広島支社に厚狭駅の有効活用の思いを伝え、ひかり号やさくら号の厚狭駅停車を要望していく。

2 効果的で効率的な施策展開を図るための公共施設の最適化等行政運営について

論点	今後の公共施設の在り方について聞く。
回答	老朽化により公共施設の大規模修繕、更新に係る費用は増大している。統廃合を含め公共施設等総合管理計画に基づいて、個別施設ごとの個別施設計画を作成している。これからは、必要な行政サービスを維持しつつ、施設に係る維持管理費用や修繕、更新費用が削減できるように取り組む。

論点	横断的組織のあり方について聞く。
回答	自治体の環境、市民ニーズの多様化等複雑化する中で、組織の横断的な対応は不可欠である。現在の横断的な組織体制は、市長あるいは副市長が必要な指示を示し、中心となる部署を明確にすることで、対応ができています。部課長を初めとする職員においてもそうした横断的な対応や総合連携に基づく情報共有や役割分担について把握をしていく。

論点	平成31年度からの行政改革大綱について聞く。
回答	策定に当たり第1次の検証作業を行い課題や達成度などの検証結果をもとにして、第2次においても引き続き取り組むべき項目の取りまとめを行う。また、国の施策の動向や社会経済情勢の変化などを踏まえ取り組むべき項目の整理を行い、経営的視点に立った行財政運営の推進、行政サービスの質の向上、そして職員力の強化の視点も取り入れ計画を査定したい。

3 経営的視点に立った施策全体の優先度について

論点	優先度の高い施策について聞く。
回答	費用対効果を考えながら、事業を選ぶことは必要であるが市民の生命財産を守る安心安全の確保や持続可能な地域社会を維持するために、長期的な支援に立ち、その施策を優先的に取り組んでいく。

論点	市民の安心安全の立場から社会健康薬学の推進手段を聞く。
回答	山口東京理科大学の薬学部がこのたび新設され、健康医療に関する病を未然に予防するといった未病対策等社会予防薬学教育により未病対策を行い健康寿命の延伸につなげたい。今後フォーラムを開催し、薬学部を中心とした地域の活性化と健康社会の実現に向けた醸成を図りたい。

論点	地域の医療格差について聞く。
回答	地域により医療格差があるのは認識している。市内には62箇所の

	<p>医療機関があり、急患診療所を1箇所設け、救急医療の対応をしている。なお、訪問診療や往診が可能な病院もあり、引き続き医師会と連携協力環境を維持し、市民の健康確保に努めたい。</p>
--	--